

アンネ・フランク・ハウス 物語のあミュージアム

ミュージアムガイド・日本語



anne frank house

ミュージアム

- 1 入口
- 2 ようこそ

プリンセンクラフト263

表の家と裏の家

- 3 倉庫
- 4 事務所
- 5 貯納室



6 踊り場と動く本箱

隠れ家

7 フランク家のオットー、エーディット夫妻と、マルゴの部屋

8 アンネ・フランクとフリッツ・ペッフェルの部屋

9 洗面所

10 ヴァン・ペルス家のヘルマンとアウグステの部屋

11 ペーター・ヴァン・ペルスの部屋

12 表の家につながる廊下

13 ホロコースト

プリンセンクラフト265

14 オットー・フランク

15 日記

プリンセンクラフト267

16 展示室

17 ミュージアムカフェ

18 書店

19 出口



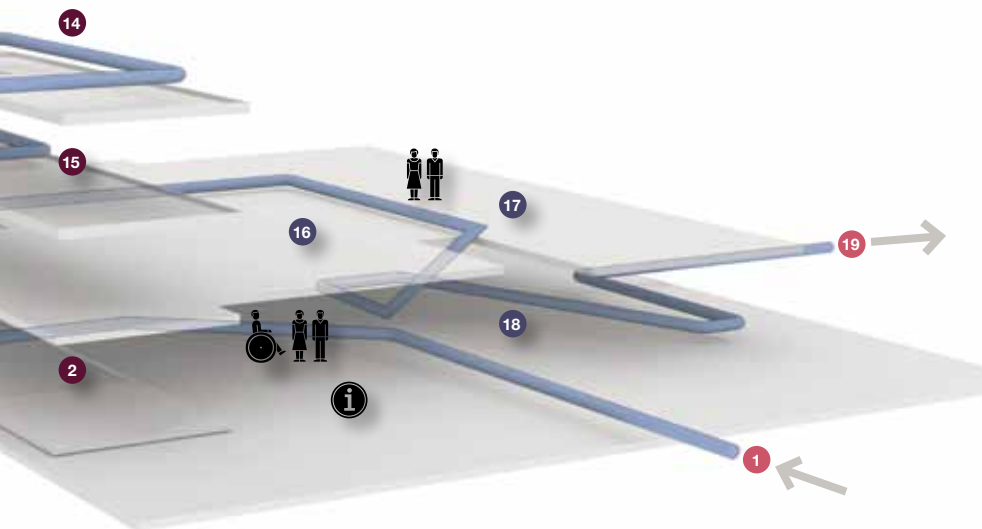
洗面所

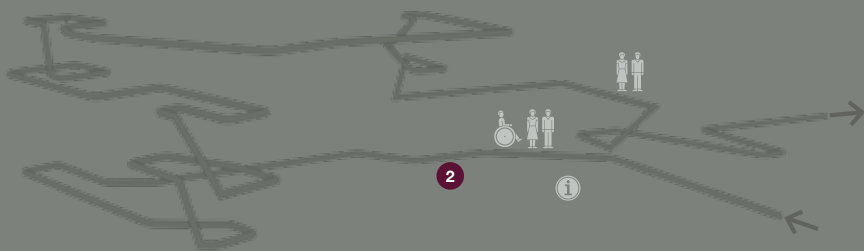


障害者用トイレ



インフォメーション





2 アンネ・フランク・ハウスに ようこそいらっしゃいました。

アンネ・フランク・ハウスは特殊なミュージアムです。ここは第二次世界大戦中、アンネ・フランクが潜行して日記を書いていた所です。アンネの日記の文章や写真、フィルム、そして残されたものが、ここで実際に何があったのかを説明しています。ミュージアム館内には見学者のためのルートがあります。

このいまわしい戦争もいつかは終わるでしょう。
いつかきっと、私たちが
ユダヤ人ではなく、一個
の人間となれる日がくる
はずです。

アンネ・フランク、1944年4月11日

アンネ・フランク

第二次世界大戦中のユダヤ迫害の被害者は何百万人もいます。アンネ・フランクもその一人です。アンネ・フランクは、1929年ドイツのフランクフルト・アム・マイン市で生まれました。ヒトラーが1933年にドイツの政権を握り反ユダヤ政策を掲げると、ユダヤ系のフランク一家はオランダに脱出し、お父さんのオットーが新しく設立した会社のあるアムステルダムに移転しました。

オランダ占領

1940年5月、ドイツ軍はオランダを占領し、ここでも反ユダヤ政策を取りました。それでオットーとエーディット・フランク、そして娘のマルゴーとアンネは潜行することになりました。

潜行

フランク一家は、オットー・フランクの会社のあるプリンセンクラフト263番地の建物に用意した隠れ家に潜行します。あとからヘルマン・ヴァン・ペルスと妻のアウグステ、息子のペーター、そしてフリッツ・ペッフェルも隠れ家に移ってきました。オットーの会社の建物には、表の家と裏の家の2つがあります。その裏の家の一番上の階に、八人の潜行者は住んでいました。

日記

アンネは13歳の誕生日に両親から一冊の日記帳をもらいました。フランク一家が潜行する時、アンネは日記帳を持っていました。

ミュージアム

潜行者八人のうち戦争を生き延びれたのはオットーだけでした。オットーは、アンネの日記を出版することになりました。1960年に、この隠れ家はミュージアムになりました。

潜行者



オットー・フランク



エーディット・フランク=ホルンデル



マルゴ・フランク



アンネ・フランク



ヘルマン・ヴァン・ペルス



アウグステ・ヴァン・ペルス=ロトゲン



ペーター・ヴァン・ペルス



フリッツ・ベッフェル

協力者



ミッ・ギース=サントロウシツ



ヨハネス・クレイマン



ヴィクトル・クフレル



ベッ・フォスクイル

括弧内はアンネが隠れ家の住民に付けたニックネーム

オットー・フランク、1889年5月12日ドイツのフランクフルト・アム・マインで生れる。戦争を生き延び91歳でバーゼル(スイス)で没する。

エーディト・フランク=ホレンデル、1900年5月12日ドイツのアーケンで生れる。1945年1月6日アウシュヴィッツ=ビルケナウ絶滅収容所で死亡。

マルゴー・フランク、1926年2月16日ドイツのフランクフルト・アム・マインで生れる。1945年3月ベルゲン=ベルゼン強制収容所でチフスにかかり死亡。

アンネ・フランク、1929年6月12日ドイツのフランクフルト・アム・マインで生れる。1945年3月ベルゲン=ベルゼン強制収容所でチフスにかかりマルゴーの死後すぐに死亡。

ヘルマン・ヴァン・ベルス(ヘルマン・ヴァン・ダーン)、1898年3月31日ドイツのゲールデで生れる。アウシュヴィッツ=ビルケナウ絶滅収容所のガス室で処刑されたと思われる。

アウグステ・ヴァン・ベルス=ロトゲン(ペトロネーラ・ヴァン・ダーン)、1900年9月29日ドイツのブウェルで生れる。1945年4月か5月にベルゲン=ベルゼンからテレージエンスタット強制収容所への移送中に死亡。

ペーター・ヴァン・ベルス(ペーター・ヴァン・ダーン)、1926年11月8日ドイツのオスナブリュックで生れる。1945年3月或は4月マウトハウゼン強制収容所で死亡。

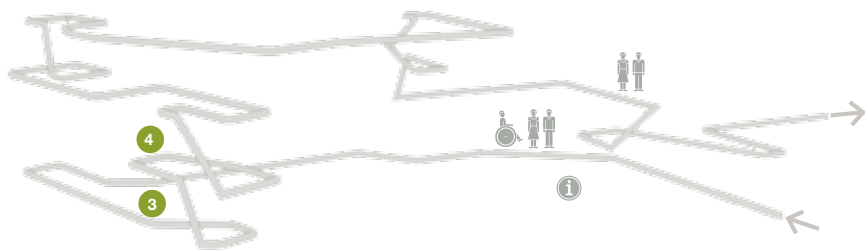
フリッツ・ベッフェル(アルベルト・デュッセル)、1889年4月30日ドイツのギーセンで生れる。1944年12月20日ノイエンガム強制収容所で死亡。

ミップ・ギース=サントロウシッツ、1909年2月15日オーストリアのウィーンで生れる。2010年1月11日オランダのホーレンで死亡。

ヨハネス・クレイマン、1895年8月17日オランダのコーグ・アアン・デ・ザーンで生れる。1959年1月28日アムステルダムで死亡。

ヴィクトル・クフレル、1900年6月6日オーストリアのホーヘン・エルベで生れる。1983年5月6日アムステルダムで死亡。

ベップ・フォスクイル、1919年7月5日アムステルダムで生れる。1983年5月6日アムステルダムで死亡。



展示ケース
ユダヤ人につ
けさせた星印



3 倉庫

オットー・フランクは、オペクタとペクタコンという2つの会社を持っていて、両方ともこの建物の中にありました。オペクタ社はジャムを固めてゼリー状にするペクチンを販売し、ペクタコン社は肉用調味料を製造していました。倉庫では作業員が胡椒やクローブなどの香辛料を製粉していました。

作業員達は隠れ家の存在をしていたのでしょうか？

裏の家に潜行者が隠れていることを知っていたのは事務員だけで、作業員達は知りませんでした。オットー・フランクが事務員に彼と彼の家族を助けてくれるように頼みました。

倉庫にいる人たちに聞こえないように、日中はどんな時でも音を立てないように静かに歩き、小声で話し合わなければなりません。

アンネ・フランク、1942年7月11日

ビデオ

30年代、オペクタ

社の宣伝映画に

出演したミップ・

ギース



事務員と協力者は、ヴィクトル・クフレル、ミップ・ギース、ヨハネス・クレイマン、そしてベップ・フォスクイルで、彼らは戦争が続く間、オペクタ社とペクタコン社の仕事をこの事務所で一緒に続けます。協力者は八人の潜行者の食料、衣類、書籍や新聞などの生活必需品を調達しました。潜行者は完全に協力者に頼るしかありません。また協力者の責任は大きく、潜行者を助けるには大きなリスクが伴いました。

協力者はどのようにして食料を手にいれていたのでしょうか？

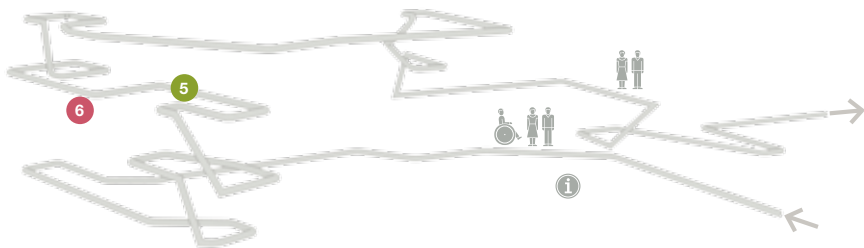
ミップ・ギースとベップ・フォスクイルは、近所の食料品店や闇市で食料を買集めました。ミップの夫のヤン・ギースは、反ドイツ抵抗運動グループの知人から食料配給券を入手していました。戦争が長引くにつれ、食料の入手も大変困難になっていきました。

クフレルさんは、私達八人に対する責任のあまりの重さで鬱積し心痛で疲れ果て、時には口もきけないことがあります。

アンネ・フランク、1944年5月26日

オペクタ社の製品





模型

内装された隠れ家



5 貯納室

貯納室には香辛料などが保管されていました。香辛料を直射日光から守るため窓はペンキで塗りつぶされていました。そのお陰で裏の隠れ家は見えなくなっていました。

隠れ家の部屋の中は空のままです。1961年、オットー・フランクは隠れ家の模型の製作を依頼しました。その模型を見ると潜行中の隠れ家の内装がどのようになっていたのかがよくわかります。

隠れ家の部屋はなぜ空のままなのでしょう？

潜行者が逮捕された後、隠れ家はナチスの命令で空にされました。1960年、隠れ家はミュージアムになりましたが、オットー・フランクの強い願いで隠れ家は空のままに残されました。空っぽの隠れ家は、連れ去られて二度と帰って来なかった何百万人もの人たちを象徴しています。

6

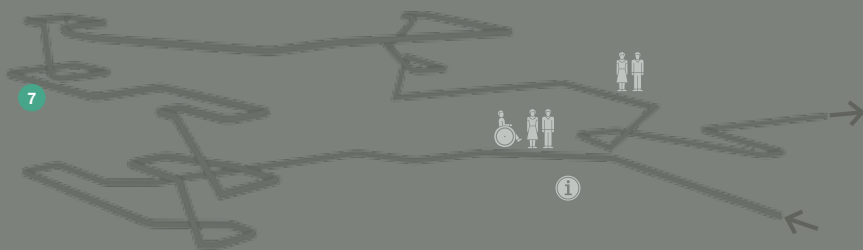
動く本棚のある踊り場

動く本棚はオリジ
ナルです

動く本棚は、隠れ家への入り口を隠すため特別に作られました。踊り場の窓は、不透明なガラス紙が貼ってあります。それで表の家のどの位置からも裏の家は見えません。

私達の隠れ家は、今や本当の隠れ家になりました。クフレルさんが、入り口のドアの前に本棚を置いた方がいいだろうと
いったからです。

アンネ・フランク、1942年8月21日



隠れ家

7月6日月曜日、オットー、エーディット、マルゴー、そしてアンネのフランク一家は潜行しました。一週間後、ヴァン・ベルス一家のヘルマンとアウグステ、そしてペーターが潜行しました。そしてフランク一家の知り合いのフリッツ・ペッフェルが4ヶ月後に加わりました。潜行者達はここで2年間も過ごすことになります。

日中は、カーテンを1センチでもあけることが出来ません。

アンネ・フランク、1942年11月28日

潜行者たちは一日24時間家の中にいました。隠れ家のカーテンは、近所の人たちに見つからないように、いつも閉めたままです。日中、下の倉庫で作業員が働いている間は、静かにしていなければなりません。息が詰まるような隠れ家の生活と、発見されることへの恐怖で緊迫していました。

7 オットーとエーディットとマルゴールの部屋

地図

連合軍のノルマン

ディ進攻



オットー、エーディット、マルゴールの三人の寝室は、フランク一家の居間を兼用していました。アンネはよくこの部屋にいました。

1944年6月6日、連合軍がノルマンディ海岸に上陸したとのニュースを聞いて、隠れ家には興奮の渦が巻き起こりました。オットー・フランクは、ラジオ放送を熱心に聞いて、連合軍の進撃状況を地図に示していきました。

オットーとエーディットは、潜行初期から娘達がどれだけ成長したかを壁に線を引いて印していました。2年間でマルゴールは5センチほど、アンネは13センチも身長が伸びました。

隠れ家にラジオはあったのでしょうか？

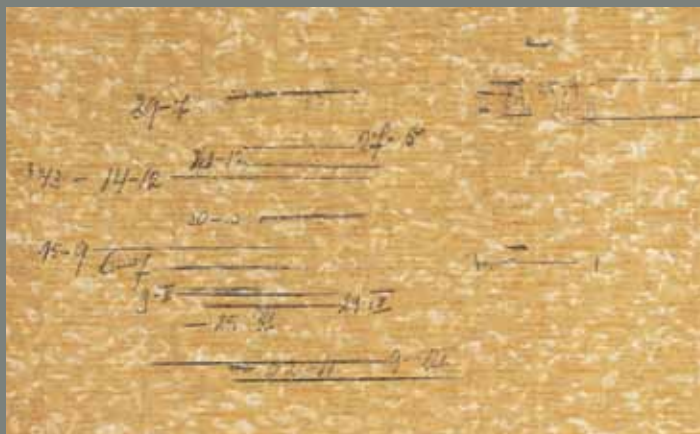
隠れ家潜行者の共同の居間に小さなラジオがありました。潜行者達はここでよく戦争の成り行きをBBC放送で聞いて希望を持続けました。

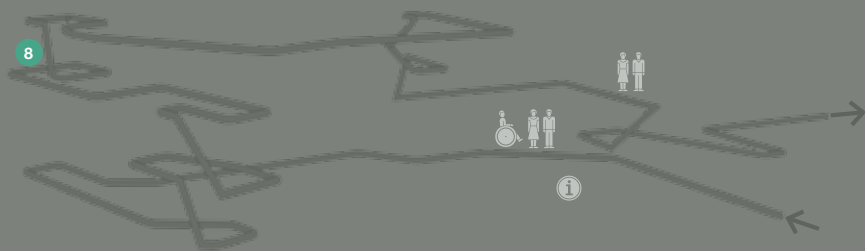
壁の身長成長線

のクローズアップ；

左がアンネで右が

マルゴールのもの





8 アンネ・フランクと フリッツ・ペッフェルの部屋

映画

グレタ・ガルボ



王室

エリザベス王女



絵画

レンブラント



アンネはフリッツ・ペッフェルと同じ部屋にいましたが、二人はときどき大喧嘩をしました。アンネは外に出れないことが大変辛かったのです。日記に自分の気持ちを書くことで心を晴らしていました。

自転車に乗ったり、ダンスをしたり、口笛を吹いたり、世間を見たりして、自分の若さを味わい、自分は自由だと知ること、これが私が今渴望していることです。

アンネ・フランク、1943年12月24日

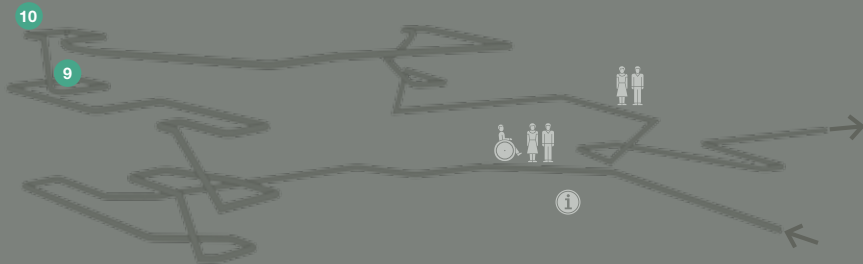
他の女の子と同様にアンネは自分の部屋をポスターや写真で飾りました。それらの写真がアンネが大人へと成長していく様子を語ってくれます。潜行当初には、彼女は映画スターなどにあこがれ、後には芸術や歴史に興味を持っていました。写真を次々と追加し、写真の上にさらに写真を貼り付けていきました。

お父さんが前もって映画スターの写真や絵はがきを持ってきておいて下さったお陰で、私は糊とブラシを使って壁全体に写真を貼り、この部屋を一つの絵に作り上げました。

アンネ・フランク、1942年7月11日

家具や諸道具で
内装されたアンネ
とフリッツの部屋





9 洗面所

潜行者達は、日中はトイレと水道は出来る限り使わないようにしていました。水道管や配水管は倉庫を通っていましたが、倉庫作業員たちは誰かがこの建物の中に隠れているとは知りませんでした。

「シート、お父さん、オットー、静かにして。シート、こっちに来なさい。もう水を流しちゃだめよ。静かに歩いて！」これが、洗面所に入っているお父さんにささやきかける言葉です。時計が八時半を告げる前に、彼は部屋に戻っていなければなりません。それからはもう一滴の水も出してはいけません。トイレも使ってはいけません。歩いてもいけません。ちょっとの音も立ててはいけません。

アンネ・フランク、1943年8月23日

10 ヘルマンとアウグステ・ヴァン・ペルスの部屋兼住民全員の居間

ヘルマンとアウグステの寝室は、住人全員の居間とキッチン兼ねていました。潜行者はよくここで過ごしました。ここで料理をし、食事をし、勉強し、本を読み、笑い合い、口論をしました。潜行生活は時とともに辛さを増していきました。食料の蓄えがなくなりだすと緊張が高まり、不満が増えていきました。

明日からは、一片の脂身もバターもマーガリンありません。ぎょうの昼食は、樽ずめのキャベツとジャガイモの煮込みです。一年近く樽に入れてあったキャベツの発する悪臭ときたら、なんともたまらない！

アンネ・フランク、1944年3月14日

展示ケース

ショッピングリスト



内装された居間の 模型



11

12

鏡

屋根裏がちょっと
見えます



11 ペーター・ヴァン・ペルスの部屋

ペーターだけが、潜行者の中では自分だけの部屋を持っていました。彼の部屋には屋根裏に上る梯子段があります。屋根裏は生活必需品や食料の保管室として使われていました。アンネとペーターは、よく二人で屋根裏にいました。外を見ることが出来るのはここからだけで、アンネとペーターが二人きりで過ごすことが出来た空間です。

私達は二人で、青い空や、葉の落ちたマロニエの木の枝に光る水玉や、空に飛ぶカゴメや他の鳥が銀製のように見えるのを眺めていました。

アンネ・フランク、1944年2月23日

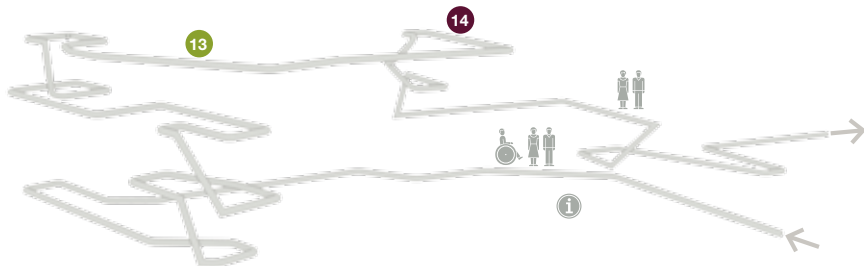
アンネはペーターに恋をしていたのでしょうか？

アンネは、初めの頃はペーターのことを退屈な男の子ぐらいにしか思っていないかもしれませんが、あとで考えが変わり、ペーターに恋するようになりました。アンネは生まれて初めてのキスをペーターと交わします。しかし、しばらくすると、この恋する想いは徐々に消え、ペーターとの間にもっと距離を置くようになります。

隠れ家を出て表の家に入ります。

イギリスのラジオ放送
は、毒ガスで殺されている
とっています。私は
気が狂いそうです。

アンネ・フランク、1942年10月9日



ビデオ

ベルゲン=ベルゼ

ン収容所の頃の

アンネについて語

るハンネリ・ゴス

ラル



13 ホロコースト

1944年8月4日、潜行者達は密告され、秘密警察がプリンセンクラフト263番地を襲いました。ナチス達は、ミップ・ギースとベップ・フオスクイルを残して、潜行者八人全員と協力者のヨハネス・クレイマンとヴィクトル・クフレルを逮捕し連行しました。

誰が潜行者のことを密告したのでしょうか？

密告者についてはいろいろな説があります。戦後、幾度か密告者の調査が行われましたが、どの調査も解明には至らず、密告者が誰だったのかは謎のままです。

1944年9月3日、八人の潜行者は、アウシュヴィッツ=ビルケナウ絶滅収容所へ移送されました。八人の潜行者のうち戦争を生き延びられたのは、オットー・フランク一人だけでした。フランク家のアンネ、マルゴー、エーディト、ヴァン・ペルス家のベーター、アウグステ、ヘルマン、そしてフリッツ・ベップフェルは強制収容所で命を落としました。協力者は戦争を生き延びることが出来ました。

ビデオ

娘のアンネについ

て語るオットー・

フランク



14 オットー・フランク

自分の過去を知らないと、将来は築けない。

オットー・フランク、1967年

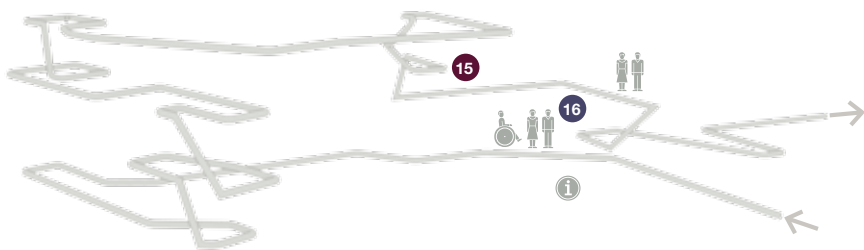
オットー・フランクは1945年6月3日アムステルダムに帰り着きました。妻のエーディットが亡くなったことは知っていましたが、アンネとマルゴーの生存にはまだ望みをかけていました。のちにマルゴーとアンネがベルゲン＝ベルゼンで死亡したことを聞かされました。そのあとでミップ・ギースは、アンネの日記をオットーに渡しました。

オットーは最初は躊躇していましたが、アンネの日記を出版することになりました。1947年6月25日、オランダ語の第一版が出版されました。

オットー・フランクは、彼の余生を差別や偏見の撤廃運動に捧げました。また1960年、隠れ家の建物をミュージアムとして一般公開するために尽くしました。そして1980年に死ぬまで、アンネの日記を読んだ読者から届く何千通もの手紙の返事を書き続けました。

日記はどう保存されていたのでしょうか？

潜行者達が逮捕された後、ミップ・ギースとベップ・フォスクイルは隠れ家でアンネの日記やノート、紙やペンなどが散乱しているを見つけました。ミップは戦争が終わったらアンネに渡そうと思って、自分の机にそれらを保管していましたが、アンネが死んだと知らされたので、オットーに渡しました。



日記帳

アンネの日記帳の

オリジナル

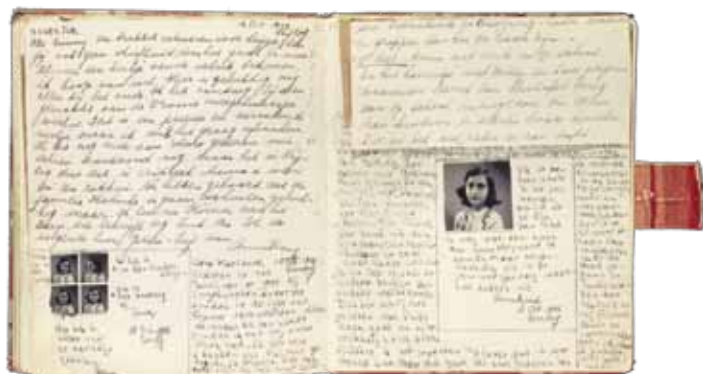


15 日記

私は文章を書いてさえいれば、何もかも忘れられます。悲しみは消え、勇気が湧いてきます。

アンネ・フランク、1944年5月5日

13歳の誕生日にアンネは両親から赤と白の格子縞の表紙の日記帳をもらいました。日記帳がいっぱいになるとアンネはノートに書き出しました。1944年5月20日からアンネはバラバラの紙に日記の書き直しを始めました。戦争が終わったら、自分の隠れ家での生活を書いた本を出版するつもりでした。またアンネは短い物語や童話も書いています。さらに自分が読んだ本の中ですてきな文章だと思ったものも書き写しています。





起こってしまったことは、もう変えることが出来ません。私達に出来ることは、歴史から学び、差別をしたり罪のない人を迫害したりすることが、何を意味するかを認識することです。私は、差別や偏見をなくする責任は私たち一人ひとりにあると思っています。

オットー・フランク、1970

フリー2チューズ

歴史から学ぶことはたくさんあります。人権を無視するということ、どのような恐ろしい事態を巻き起すか、アンネ・フランクをはじめ、何百万人ものナチス・ドイツの被害者たちの運命が教えています。人間には誰にも、表現と言論の自由、信教の自由、無差別の権利などの基本的人権があります。

フリー2チューズ・スペースには、お互いに衝突し合っている権利の実際の例が展示されています。どの権利が優先するでしょうか？ あなたの意見を聞かせてください。

特別展示室

フランク家の歴史やそれに関連したテーマについて、詳しく説明する小規模の特別展が催されています。

文章 アンネ・フランク／アンネ・フランク基金、バーゼル ©アンネ・フランクの家族の写真；アンネ・フランク財団、アムステルダム
2012 デザイン：ペウケル・ス・エール、イラスト：フレデリック・ルイス、写真：ルーク・クラメル、リクス・ペーレル、クリス・トリア・オリヴァレス、ケース・ファンメル、印刷：ワークス・エ

書店



www.annefrank.org/secretannex

[flickr.com/photos/anne_frank_house](https://www.flickr.com/photos/anne_frank_house)



IBAN: NL54 RABO 0122 4699 25

